専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充（シ06）

目　　的　当研究所が行う文化財の調査・研究の成果を集約するとともに、専門性の高い資料や情報を蓄積・整理する。併せてデータベースの継続的拡充を行い、資料閲覧室を窓口にして文化財に関する総合的レファレンスを充実させる。

成　　果　1．当研究所2階の資料閲覧室を運営、週3回開室し、国内外の研究者等へ図書・雑誌・写真・デジタルコンテンツ等を利用に供した。

2．アーカイブズ・ワーキンググループ協議会の開催

全所的文化財情報を発信するため、4半期ごとにアーカイブズ・ワーキンググループ協議会を開催した（2019（令和元）年5月13日、8月6日、10月18日、2020（令和2）年3月31日、第4回のみメールによる協議）。各部門の担当者とともに成果公開のための情報の標準化を進めた。

3．刊行物アーカイブズ・システムを運用・評価し、継続的・安定的な研究情報の蓄積・公開を推進し、図書館システムの運用を行い、情報の標準化に努めた。

4．明治・大正期刊行の貴重書、写真資料のデジタル化推進

・当研究所及び東京美術倶楽部所蔵の売立目録について、データ入力とシステム改良を行い、売立目録デジタルアーカイブを完成させ、2019（令和元）年5月より公開を開始し、国内外からの利用者に提供した。さらに2020（令和2）年2月25日に関連研究会を開催し、成果公開を行い、今後の課題や発展性を共有する機会とした。

・当研究所の所蔵する写真資料、近現代の美術作品カード（絵葉書資料）等のデータ入力を進め、公開のための準備を行った。

5．ゲッティ研究所が構築している語彙データベースとの連携のため、当研究所が蓄積してきた美術家情報、その整備について報告した。

6．美術資料のデータ化と成果公開

永青文庫所蔵「洋人奏楽図屏風」（重要文化財）に関するデジタルコンテンツ等を作成し、2020（令和2）年1月より所内公開を開始した。

閲覧室事業の運営

1．年度内資料受け入れ数

和漢書1,853件、洋書777件、展覧会図録・報告書等1,355件、雑誌2,720件（合計6,705件）

2．年度内閲覧室利用状況

公開日総数125日・年間利用者合計988人※新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休室10日（20.2-3）

発　表・Hideki KIKKAWA: Japanese Artists: Tokyo National Research Institute for Cultural Properties (Tobunken), International Terminology Working Group Meeting, 20.2.6

・山口隆介「仏像研究における売立目録の活用と公開の意義」・山下真由美「土方稲嶺展（於鳥取県立博物館）での売立目録の活用と展開」・月村紀乃「工芸研究における売立目録デジタルアーカイブの活用方法とその事例」・安永拓世「売立目録デジタルアーカイブから浮かび上がる近世絵画の諸問題」、研究会「売立目録デジタルアーカイブの公開と今後の展望―売立目録の新たな活用を目指して―」 20.2.25

研究組織　○江村知子、橘川英規、安永拓世、米沢玲、二神葉子、小山田智寛、小林公治、塩谷純、小林達朗、小野真由美、城野誠治、細川民子、寺﨑直子、尾野田純衣、大前美由希、田村彩子、阿部朋絵、鈴木良太（以上、文化財情報資料部）、久保田裕道（無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務）、早川典子（保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務）、西和彦（文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務）、永崎研宣、片山まび（以上、客員研究員）